



令和7年度 高雄日本人学校

# 愛河

校訓 「高雄の子ども」 たくましい子 考える子 思いやりのある子



学校だより12月号  
令和7年11月28日  
文責 校長 堀山 知基

## 1年締めくくりの12月です

来週は早くも1年の締めくくりの月・12月です。今年は12月21日が二十四節季の一つ「冬至」ですが、台湾では、この冬至の時期に湯圓（タンユエン）を食べる風習があるそうです。食感も良く、私たち日本人にも人気のある台湾料理の一つですが、これは、湯圓の丸い形が家族円満を表し、1年を丸く収めるという意味を込めて、この風習につながったとも言われています。日本の12月は、「師走 = 慌ただしい」というイメージですが、この台湾の風習のように、湯圓を家族全員でゆっくり食べながら、この1年を振り返ってみる、というのもいいかもしれませんね。

さて、12月23日（火）の冬休み前集会までの登校日数は、17日です。この1年の学習と生活のまとめに、児童生徒がしっかりと取り組めるよう、今後の指導に努めてまいります。ご家庭でもお子様たちへ、励ましの声掛けをよろしくお願いいたします。

## 中正國小との交流活動～職員も頑張っています！～

11月17日（月）～19日（水）、小学部の各教室に隣接する中正國小との児童を招いて、交流活動を行いました。今年は、高雄日本人学校の子供たちが受け入れ側となりますから、事前に活動の計画や準備を行い、交流当日を迎えるました。「準備していた活動が、うまくできるかな?」「中国語で話ができるかな?」と多少の不安があったようですが、いざ活動が始まると、高雄日本人学校の子供たちはジェスチャーも交えながら親切に説明をして、一緒に活動することができました。日本の昔ながらの遊びである手回しこまや、「だるまさんが漣んだ」などで一緒に遊ぶと、双方の子供たちに笑顔があふれ、すぐに仲良くなることができました。言葉が多少通じなくても、表情や仕草で分かりあえる。やはり子供たちは、コミュニケーションの達人ですね。

そして、交流を頑張っているのは、子供たちだけではありません。本校では毎年、数名の職員が中正國小へ出向き、日本語の出前授業の取組を行っています。今年度は、I教諭、K教諭、U教諭の3名がそれぞれ3コマずつの授業を担当しています。先週までに行われた授業では、日本語の簡単な会話や挨拶、食文化や日本語の歌などを紹介する授業を実践しました。日本の文化に興味をもっている中正國小の子供たちは、元気に言葉を復唱したり、一緒に歌を口ずさんだりする姿が見られました。

このように、台湾現地の小学校の子供たちと密接に交流活動を実施できるのは、敷地内を共有している本校ならではのメリットです。今後も台日友好の礎を作ることができるよう交流活動を推進してまいります。



## 楽しいひととき。PTA來來フェスタ開催！

先週22日（土）、PTA並びにチャレンジャーズの皆様の主催・ご協力により、來來フェスタが開催されました。今年も、ストラックアウトやプラ板作りなど、親子で楽しめるすてきなブースが並び、盛況となりました。また、普段は勉強に忙しい中学部の生徒も、幼い頃を思い出して（？）、笑顔で楽しく過ごせていたように思います。事前準備、運営を行っていただきました関係の皆様に、御礼を申し上げます。ありがとうございました。



熱唱！